

<b>柔道整復実技（下肢②）</b>		<b>実技</b>	<b>講師 木下 美聡</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>柔道整復師コースの専門選択科目</b>		<b>科目ナンバリング</b>	<b>12371302</b>

### 1. 授業のねらい・概要

本講義では、下肢脱臼の概論、部位別の下肢の脱臼の発症メカニズム、修復メカニズムの理論を基礎とし、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足趾関節脱臼の整復法・固定法について実技により学んでいく。

### 2. 授業の進め方

解剖学、機能解剖学を復習しながら、整復・固定の実技を習得していきます。教員がまず各課題への見本を示し、その手順を繰り返し練習することにより技術の習得を目指します。膝関節周囲の脱臼は他の疾患との鑑別が必要なため、特に注意を払って解説をすすめていきます。学生は、実習着を着用し、各自、教科書で内容を確認しながら、自身のノートを作成してください。

### 3. 授業計画

1. 概説と授業の進め方	9. 足趾関節の機能解剖学的触診
2. 股関節周囲の機能解剖学的触診	10. 足趾関節脱臼（整復と固定）
3. 股関節脱臼（整復と固定）	11. 股関節周囲損傷の対応
4. 膝関節の機能解剖学的触診	12. 大腿部周囲損傷の対応
5. 膝関節脱臼（整復と固定）	13. 膝関節周囲損傷の対応
6. 膝蓋骨脱臼（整復と固定）	14. 足関節周囲損傷の対応
7. 足部の機能解剖学的触診	15. 実技テスト
8. 足関節脱臼（整復と固定）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

①授業計画に従って予備知識の習得を1時間程度行ってください。（教科書を読み、学習キーワードをチャート式にまとめると良い）

②各單元ごとに実施する確認テストのための学習（各單元ごとに学習した内容の復習）を30分～1時間程度行ってください。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業内に確認テストを行い、前回までの授業キーワードを説明します、そのことにより知識と技術の融合をはかります。

②定期的に提出頂くレポート（3～4回分の授業終了後）に対してコメントを致します。そのコメントにより知識と技術の定着をはかります。

### 6. 授業における学修の到達目標

下肢の脱臼をそれぞれのタイプ別に整復、固定ができるようになる。

### 7. 成績評価の方法・基準

レポート（25%）、確認テスト（25%）、実技テスト（50%）を基準として総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

柔道整復学・実技編 改訂第2版、全国柔道整復学校協会監修、南江堂

### 9. 受講上の留意事項

- 1) 本講義は、対面で行いますが、補助教材は学生のメールアドレス、あるいは、google classroom に一斉送信することがあります。その際は、それぞれプリントアウトして利用してください。
- 2) 提出物は、指定された様式にて提出してください。(提出物には必ず、所属、学籍番号、氏名等の連絡先の記入をお願いします。)
- 3) 教員へのコンタクト方法：教員への直接の質問は授業後、又はオフィスアワーで受け付けます。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、医療機関における実務経験を活かして指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。